

苫小牧市立清水小学校学校便り

# 清水の子



『未来を創造する  
清水の子の育成』

◇学びを広げる子  
◇思いやりあふれる子  
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@city.tomakomai.hokkaido.jp  
第 6 号 平成 28 年 9 月 27 日発行

## 生きる力

校長 一谷 浩之

先日、私が教師になったばかりの頃の先輩先生からお手紙を頂きました。今でこそ私は校長職を務めておりますが、当時はやんちゃな若さに任せただけの教師でした。その私を叱ること無く、寄り添ってくれながら危なっかしい教育実践を修正してくれた先輩でした。今は教育現場を離れて市民の目で教育を俯瞰しているものと思います。私はこう思うという意見で「生きる力」について先輩の考えが述べられていました。

「生きる力」というものは、2つに分けて考える必要があると考えます。1つめは現に「精一杯健気に生きている」…その力を「第1の生きる力」と考えると、どの子も第1の生きる力は十分に発揮できていると考えます。夢も持ちにくい時代の中で、第1の生きる力を精一杯発揮して「生きているだけでたいしたもの！それだけで凄いこと！それだけで大いに褒めてあげたい！」と大人は思っただけだと考えます。子ども達が健気に精一杯生きている姿に感動し嬉しく思うことが大事だと思います。

学習指導要領で目指す知・徳・体の調和のとれた力の育成は「第2の生きる力」と考えた方がいいと思います。主体的に学ぶとか友達を思いやるとか、そういう「第2の生きる力」を子ども達が身に付けてきたら、それは、当たり前なことでは無く奇跡的に凄いことだとだと思ふべきなのです…

手紙を読んでいて忘れていたものが蘇ってきました。人の親として我が子が生まれてくる時、健康に生まれてくることだけを祈って妻の正常な出産に思いをはせたこと。神に祈って出産を迎えていたこと。生まれてきた我が子は「奇跡」そのものでした。笑ったと言っては可愛いと喜び、泣いたと言っては元気が良いと喜んだあの日…。

今、校内を見渡せば子ども達の第1の生きる力は燦々と輝きを放っています。私達はその輝きを見失っていることは無いでしょうか。正直、私は時々その輝きを見失っていた時もあったように感じます。先輩の手紙を読んで「当たり前」だと錯覚していた濁った眼の自分に気付かされました。

いくつになっても先輩は先輩でした。いくつになっても人に教えられることばかりです。ちょっと嬉しい出来事でした。